

【国語・小1・「じどう車くらべ」】①

育成を目指す資質・能力

- (知識及び技能) ・事柄の順序など情報と情報との関係について理解することができる。 (2)ア
- (思、判、表等) ・事柄の順序などを考えながら、内容の大体を捉えることができる。 Cア
- ・文章の中の重要な語や文を考えて選び出すことができる。 Cウ
- (学びに向かう力等) ・言葉がもつよさを感じるとともに、楽しんで読書をし、国語を大切にして、思いや考えを伝え合おうとする。

ICT活用のポイント

児童の「入力作業の効率化」 児童や教師の「考えの共有のしやすさ」 児童同士の「よさの気付き」 教師の「指名のしやすさ」

【つかむ】

- ・自動車の種類について興味を持ち、単元の課題を確認する。

単元の課題
1年1組の「自動車図鑑」をつくるためのコツをさがそう。

【追究する】

- ・文章構成や段落の関係を捉える。
- ・バス、トラック、クレーン車の「しごと」と「つくり」について考え、ワークシートにまとめる。

【まとめる】

- ・はしご車の「しごと」と「つくり」を考え、ワークシートにまとめる。

事例の概要

- クレーン車の「しごと」と「つくり」について文章から読み取ったこととにして、どうしてそのような「つくり」になっているのか考え、個人の考えを全体で共有する。共有する中で、理由をあらわす言葉に着目させ、「しごと」と「つくり」の関係性に気付かせる。

【事例におけるICT活用の場面①】

- 自分の考えをカードに入力する際、手書き文字を自動で文字変換する機能を使う。

【事例におけるICT活用の場面②】

- 考えを共有する場面で、電子黒板やICT端末を使い、データ提出、一覧表示する。

【事例におけるICT活用の場面③】

- 「振り返り」を共有する。また、自分の考えを発表したい児童はカードに色を付けて提出する。

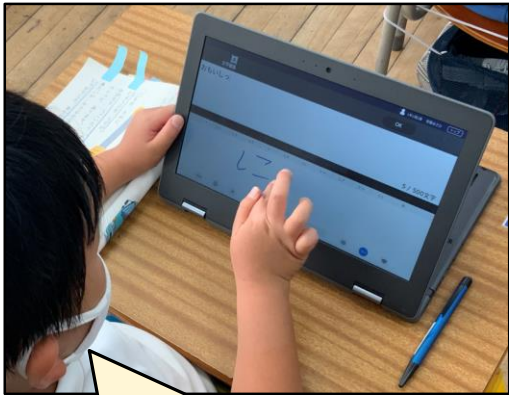
【国語・小1・「じどう車くらべ」②】

【事例におけるICT活用の場面①】

「文字変換機能」を使った「カード」への入力



自分の考えをカードに書いてみましょう。



手書きで書いても、パソコンの文字に自動で変わるから読みやすいね。

自分の考えをカードに入力する際、文字変換機能を使ったことで、**低学年の児童でも作業時間の差が生じにくくなった。**また、全体共有の場面でも**カードが読みやすかった。**

【事例におけるICT活用の場面②】

「カード」を「電子黒板」と「ICT端末」で共有



カードを送ってみんなの考えを見てみましょう。



似たような考えがあるかな？

よく使われている言葉はあるだろうか？



自分の画面でもみんなの考えをよく見てみよう。
○○ちゃん、私と同じ言葉を使ってる。大切な言葉ってことかな。

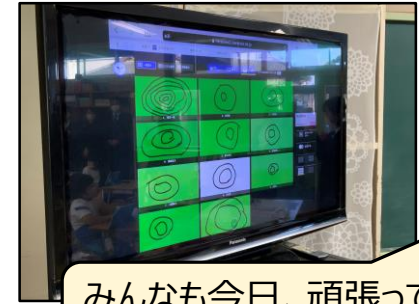
考えを共有する際、電子黒板やICT端末を使ったことで、**教師が児童の考えを把握しやすくなった。**また、**児童も考えを比較しやすくなり、新たな発見をしやすくなった。**

【事例におけるICT活用の場面③】

「振り返り」の共有



今日の学習が良くできた人は◎を書いて送ってください。次の時間に学習したいことがある人は、カードを緑にして送ってください。



みんなも今日、頑張って勉強していたんだなあ。



緑のカードの子に意見を言ってもらおう。色でわかるから指名しやすいな。

「振り返り」を共有することで、**児童が友達のよさに気付きやすくなった。**また、カードに色を付けることによって**教師が児童を指名しやすくなった。**